第 101 号（No.101）

2026 年 10 月 1 日

Newsletter

――学 会 会 報――

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目　次

〈理事会報告（2026 年 6 月 19 日）〉
〈新理事会報告（2026 年 6 月 20 日）〉
〈総会報告（2026 年 6 月 21 日）〉
〈代表理事退任の挨拶〉
〈代表理事就任の挨拶〉
〈臨時理事会報告（2026 年 9 月 6 日）〉
〈「秋のセミナー2026」（公開）のお知らせ〉
〈事務局からのお知らせ〉

理事会報告（2026 年 6 月 19 日）

（対面参加）磯田理事、上地理事、上野理事、奥村理事、唐木理事、川口理事、木原理事、金馬理事、草原理事、澤田理事、高橋理事、中野理事、西岡理事、根津理事、樋口理事、藤本理事、松下代表理事、的場理事、森理事、吉田理事、香川大学附属高松小学校、磯崎哲夫会員（大会実行委員長）（計 22 名）
（オンライン参加）石井理事、石田理事、黒田理事、倉本理事、子安理事、柴田理事、村川理事、吉田茂孝会員（選挙管理委員長）（計 8 名）
事務局：竹川事務局長・理事、冨士原理事　（計 2 名）

定例理事会が、2026 年 6 月 19 日（金）16 時 00 分から 17 時 30 分まで、広島大学東千田キャンパス（慎思棟 5 階　SENDA LAB）および Zoom を用いたウェブ会議形式で開催された。32 名（うち理事 30 名、事務局 2 名※2 名は理事をかねる、大会実行委員長 1 名、選挙管理委員長 1 名）の参加があった。理事会開催に先立ち松下代表理事より、続いて磯崎哲夫大会実行委員長より挨拶がなされた。

○審議事項
Ⅰ　総会議事について
事務局長より総会議事案として、2025 年度の活動報告、決算報告・監査報告ならびに第 37 回大会年度（2026 年度）活動方針案・予算案、会則の変更についての説明が行われた。数カ所の記載漏れ、誤記の指摘がなされ修正箇所を確認した。「決算報告書」に記載された「団体会員勧誘活動」の費目の説明の中で、金馬理事より総会時に今後配布予定の国立大学附属学校園への入会案内チラシ配布の事前通知をするよう提案がなされた。また、「選挙管理委員会報告」にもとづき吉田選挙管理委員長より報告があり、次期代表理事就任の根津理事より挨拶がなされた。2026 年度予算案の理事・代表理事選挙経費について根津理事より経費内容についての質問がなされた。

Ⅱ　第 37 回広島大学大会について
吉田理事（大会事務局長）より第 37 回広島大学大会について資料にもとづき説明がなされた。事前参加申込者数が 226 名、自由研究発表申込者数が 59 件（1 件取り消し連絡あり）であった。次回大会への検討課題として①共同研究発表の時間を個人研究発表の時間に統一することについて、②託児所利用の在り方、③大会広告のあり方について提案があった。①について複数の理事より他学会の例も紹介され議論したが結論は持ち越しとなった。個人、共同の発表時間のみならず総合討議の時間の位置づけも含めて検討する必要が確認された。②について草原理事（実行委員会副委員長）より今年度の利用は無かった（付記：理事会後に、1 件の利用があったことが判明した）が学会活動充実のため次期大会校でも継続することへの依頼がなされた。③について広告料と出店料の価格および大会校の事務負担のバランスについて問題提起がなされた。

Ⅲ. 各委員会の活動報告

１．学会賞委員会

磯田委員長の活動総括に引き続き、木原副委員長より大会発表時の優秀発表賞審査に向けた段取りの説明と投票依頼がなされた。

２．紀要編集委員会

澤田委員長より資料に基づき、今年度の紀要発行の経緯について説明がなされた。「1 開催委員会」の日程について 2024 年 2 月 11 日（火）を 2026 年 2 月 11 日（水）に修正した。

３．国際交流委員会

吉田副委員長より、資料に基づき説明がなされた。3 年間の「海外カリキュラム研究情報」および課題研究のテーマについて振り返りが報告された。

４．研究委員会

上地委員長より資料に基づき説明がなされた。2026 年 3 月 14 日に研究集会を開催したこと、今大会課題研究 2 件の内容について報告があった。

５．広報・若手育成委員会

唐木委員長より資料に基づき説明がなされた。3 年間の秋のセミナー、若手育成セミナー、課題研究について振り返りが報告された。

Ⅲ　次年度開催校および開催日程について

松下代表理事より資料に基づき、中部地方の複数の大学が共同運営し、会場は愛知教育大学にて開催する形態になった経緯について説明がなされ、大会事務局長の竹川理事より日程などの説明がなされた。2027 年 7 月 3 日（土)、4（日）（理事会は 2 日（金））を予定している。

○報告事項

竹川事務局長より資料に基づき「会員現況報告」、「寄贈図書等一覧」、「会計途中報告」について説明がなされた。

新理事会報告（2026 年 6 月 20 日）

出席者：石井理事、磯田理事、上地理事、上野理事、奥村理事、唐木理事、川口理事、川地理事、木原理事、金馬理事、草原理事、倉本理事、澤田理事、田村理事、根津代表理事、樋口理事、冨士原理事、松下理事、森理事、吉田理事

事務局：緩利新事務局長、竹川理事、次橋前幹事
吉田選挙管理委員長

審議に先立ち、磯崎大会実行委員長より大会校を代表して挨拶が述べられた。

続いて、吉田茂孝選挙管理委員長より、理事選挙結果および代表理事選挙結果の報告が行われた。それを受けて、本理事会の議長として、新代表理事に選出された根津理事が指名され、就任の挨拶後、議事を進行した。

根津新代表理事より、今回の理事会には、新理事の一部と新推薦理事候補が参加していないため、審議事項については提案にとどめ、9 月に臨時の理事会を実施することが伝えられた。

学会の新体制について、以下の報告が行われた。

1　推薦による理事の選出について（順不同、内諾済）

黒田友紀（現）　髙橋亜希子（現）

田中　怜（新）　戸野塚厚子（新）　宮本勇一（新）　緩利　誠（新）

2　事務局長、幹事の選出について

緩利　誠（事務局長）　竹川慎哉（幹事)、

3　常任理事の選出について

石井英真（紀要編集委員長）　田村知子（研究委員長）　西岡加名恵（広報・若手育成委員長）　吉田成章（国際交流委員長）　金馬国晴（学会賞委員長）

会則第 12 条の 2 に規定されている、代表理事に事故ある時の常任理事として代表理事選挙次点であった西岡理事が選任され、本人もこれを承諾した。

4　顧問について（＊大会後に委嘱を予定）

田中統治、長尾彰夫、水原克敏

5　監査の案について（＊総会選出、会則第 11 条の 6 による）

北田佳子（前期から継続）　山下大喜（新、任期の通例を含めて内諾済）

6　委員会の構成について

委員長および構成委員の提案が行われた。副委員長については人数を含めて、各委員会内で検討し、9 月のオンライン臨時理事会で報告を行うことが確認された。なお、推薦理事については今大会終了後に打診予定であることも確認された。

その他委員会においては、各委員長から人数・人選についての同意を得た。

総会報告（2026 年 6 月 21 日）

日本カリキュラム学会の第 37 回大会総会が、大会の 2 日目（2026 年 6 月 21 日）の 11 時 10 分から 12 時 10 分まで、草原和博会員（第 37 回大会校／広島大学）と倉本哲男会員（第 38 回大会実行委員会／静岡文化芸術大学）とを議長団として、開催された。

総会では、開会の辞、代表理事挨拶、大会校挨拶、議長団選出の後、「第 37 回大会総会議事次第」に基づき、「第 36 回大会年度（2025 年度）活動報告について」、「2025 年度決算報告・監査報告」、および「第 37 回大会年度（2026 年度）活動方針案について」の説明と提案が行われた。すべての審議事項について承認された。

議長団解任の後、第 38 回大会（2027 年度）の大会実行委員長である静岡文化芸術大学の倉本哲男会員より、次回大会の準備・運営に対する抱負が述べられた。日程については 2027 年 7 月 3 日（土）、4 日（日）。会場は、愛知教育大学（愛知県刈谷市）にて、対面形式での実施を予定していることが報告された。

総会終了後には、優秀発表賞ならびに研究奨励賞授与式が執り行われた。磯田文雄学会賞委員長より、優秀発表賞受賞者である安藤和久会員（「イエナ大学附属学校における教育実践の歴史的再構成：未刊行史料の分析を中心に」日本カリキュラム学会第 36 回大会　自由研究）と研究奨励賞受賞者である安藤和久会員（『学校改革としてのイエナ・プラン―ペーター・ペーターゼンの自律的教育科学の構想を訪ねて』春風社、2025 年）、山下大喜会員（『中国近代における「国語科」の創成―胡適の思想的模索―』九州大学出版会、2024 年）が紹介された。選考過程と受賞理由が説明された後、松下佳代代表理事より、研究奨励賞受賞に対する祝辞と、審査にあたった理事各位への御礼が述べられた。そして、両会員より、受賞対象となった研究の内容と経緯、指導教員をはじめとするすべての関係者への御礼、今後の研究に向けた抱負と決意が述べられた。

※このニューズレターの 6〜11 ページに、当日配布資料を掲載。

第 37 回大会総会　議事次第

2026 年 6 月 21 日（日）　11:10－12:10
広島大学東千田キャンパス　M401 講義室

１．開会の辞・代表理事挨拶・大会校挨拶

［議長団選出］

２．第 36 回大会年度（2025 年度）活動報告について

(1) 一般活動報告

①現況概要（2026 年 6 月 8 日時点）

会員数や会費納入状況は以下の通りである。

・会員総数 686 名（一般会員 644 名、学生会員 36 名、団体会員 6 団体）
※未納退会希望者 5 名、会員一時資格停止者 24 を含む。
※2025 年度の新規入会者数は 31 名
※昨年度総会時：会員総数 688 名（一般会員 604 名、学生会員 78 名、団体会員 6 団体）

・会費納入率
2026 年度（4/1~6/8）：完納 397 名　未納 289 名　計 686 名 57.8%（切り捨て）
※未納退会希望者 5 名、会員一時資格停止者 24 を含む。
（2025 年度 90.4%、2024 年度 89.5%、2023 年度：89.0%、2022 年度：92.1%）

②第 36 回大会報告

日本カリキュラム学会第 36 回花園大会は、2025 年 6 月 21 日（土）及び 22 日（日）の両日（理事会は 20 日）にわたり、花園大学で開催された。昨年の筑波大学に続き対面開催でプログラムが実施された。参加者数は、325 名（正会員 194 名、学生会員 25 名、団体会員 24 名、臨時会員 73 名、シンポジウムのみ 3 名、招待・関係者 6 名）であった。事前参加申込者は 234 名であったが、当日申込者数は 91 名となり、前回、前々回から僅かながら増加した。会場の施設内に託児室を設け、保育士 2 名と花園大学学生アルバイトによって運営した。利用者は 6 歳児 1 名（1 日）であった。2 日間で 65 件（20 分科会）の自由研究発表、4 件の課題研究、公開シンポジウム､4 件の自主企画セッションが実施された。会報第 98 号に大会報告を掲載した。

③学会誌『カリキュラム研究』第 35 号発行

④会報第 97・98・99 号発行

2025 年 6 月 18 日に 97 号、2025 年 11 月 17 日に 98 号、2026 年 3 月 2 日に 99 号を発行した。

⑤優秀発表賞及び研究奨励賞選考結果

・優秀発表賞
安藤和久「イエナ大学附属学校における教育実践の歴史的再構成：未刊行史料の分析を中心に」（日本カリキュラム学会第 36 回大会　自由研究）

・研究奨励賞
安藤和久『学校改革としてのイエナ・プラン―ペーター・ペーターゼンの自律的教育科学の構想を訪

ねて』春風社、2025 年。
山下大喜『中国近代における「国語科」の創成―胡適の思想的模索―』九州大学出版会、2024 年。
※総会終了後、授与式を行います

⑥会員勧誘の結果（2025 年度内）

新入会員 31 名（参考：昨年度 50 名、一昨年度 46 名）

⑦秋のセミナー2025 の開催

日時：2025 年 11 月 29 日（土）9:30～12:00
テーマ：「余白」の創出と活用による特色あるカリキュラムの実現
開催方法：オンライン（Zoom）
登壇者（五十音順）：
貞広 斎子（千葉大学教育学部教授・中央教育審議会教育課程企画特別部会主査）
玉村 昌彦（目黒区教育委員会指導主事）
山口 博功（大阪市立長谷川小中学校校長）
司会者：石田有記（日本体育大学）、村川雅弘（甲南女子大学）

⑧若手育成セミナー（第 5 回）の開催

日時：2026 年 2 月 15 日（日）13:30-15:30
開催方法：オンライン（Zoom）
テーマ：歴史研究をどのように論文にするか
登壇者：橋本美保（東京学芸大学）「カリキュラム研究における歴史研究の意義」
鎌田祥輝（摂南大学）「歴史研究論文をどのように執筆したか（1）」
猪股大輝（東洋大学）「歴史研究論文をどのように執筆したか（2）」
司会者：西岡加名恵（京都大学）、川口広美（広島大学）

⑨第 1 回「国際的に発信する研究活動セミナー」の開催

日時：2026 年 3 月 7 日（土）10:00～11:30
開催方法：オンライン（Zoom）
登壇者：川口広美（広島大学）「WALS 広島大会の運営を振り返る」（広報・若手育成委員会）
藤原由佳（広島大学）「国際学会に対応する研究方法・発表内容、その他の留意点など」
司会者：的場正美（愛知文教大学）、倉本哲男（静岡文化芸術大学）

⑩第 16 回研究集会の開催

日時：2026 年 3 月 14 日（土）13：00～16：00
開催方法：オンライン（Zoom）
テーマ：学校における外国にルーツのある子どもへの支援
報告者：臼井智美（大阪教育大学）
野入直美氏（琉球大学）
司会・コーディネーター：上地完治（琉球大学）、子安潤（愛知教育大学名誉教授）

(2) 2025 年度決算報告・監査報告【総会資料１】

2026 年 5 月 26 日に会計監査を実施した。緩利誠・北田佳子両監査、事務局長、ガリレオ担当者の 4 名が出席した。2025 年度の収入及び支出について事務局より説明後、監査より予算額と実績の増減の大きな費目の内訳について質問がなされた。定例理事会や各種委員会活動、秋のセミナー、若手育成セミナー、研究集会がオンラインでの開催や活動となったため、学会運営に関わる支出が少なかったとの報告が事務局よりなされた。いずれについても充分な説明がなされ、適正かつ正確に処理されていると判断した。

（監査　緩利誠　北田佳子）

３．新理事会について【総会資料２】

理事選挙および代表理事選挙結果の報告（選挙管理委員会）

４．第 37 回大会年度（2026 年度）活動方針案について

(1) 一般方針

①年次大会（第 37 回大会）の実施：広島大学東千田キャンパスを会場として開催
②第 38 回大会（2027 年度）の準備：愛知教育大学にて開催予定
③学会誌『カリキュラム研究』第 36 号発行
④優秀発表賞及び研究奨励賞の選考
⑤秋のセミナー2026 の開催
⑥第 17 回研究集会の開催
⑦理事・代表理事選挙の実施
⑧学会発足 40 周年事業に向けての検討
⑨会報、その他の広報活動
⑩会員勧誘

(2) 2026 年度予算案【総会資料３】

総会資料 3 の通り、予算案を作成した。

５．その他

・学会ホームページから会員情報の更新を随時お願いします。

学会ホームページでは、会員専用ページとして「会員名簿検索システム」を導入しています。会員相互の連絡や情報交換のためのシステムですので、所属先の情報については可能な範囲で公開していただきますようお願いいたします。また、学生としての所属がなくなった場合は、一般会員への変更をお願いいたします（※会員資格の変更については､学会 HP の「マイページ」で変更するだけでは反映されませんので、事務局または学会窓口までご連絡ください)。

・学会 HP より入会申し込みができるようになりました。入会希望の方に是非ご紹介ください。

６．閉会の辞

【総会資料１】

日本カリキュラム学会
第36回大会年度（2025年度）決算報告書
（2025年4月1日～2026年3月31日）

収入の部

項目	予算額（円）	実績（円）
学会年会費	5,000,000	5,120,000
入会金	80,000	62,000
学会誌代・雑収入・利子等	30,000	35,286
第36回大会収入	1,146,000	1,755,600
前年度繰越金	12,190,629	12,190,629
合計	18,446,629	19,163,515

支出の部

項目	予算額（円）	実績（円）
第36回大会支出	1,810,000	1,983,655
第33号・第34号紀要刊行費（含む発送費、J-STAGE掲載経費）	700,000	713,922
学会賞費（研究奨励賞および優秀発表賞）	60,000	60,000
会合費（交通費他）	300,000	55,080
事務局経費	200,000	168,850
事務局外部委託費	2,000,000	1,693,890
財）日本学術協力財団賛助会費	50,000	0
教育関連学会連絡協議会会費	5,000	5,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会	100,000	4,200
国際交流委員会	100,000	0
研究委員会	300,000	103,852
広報・若手育成委員会	300,000	107,805
学会賞委員会	100,000	25,230
（小計）	900,000	241,087
学会ホームページ及び学会システム更新	300,000	117,700
電子投稿システムの運用経費	440,000	391,270
団体会員勧誘活動	120,000	85,800
予備費	200,000	0
次年度繰越金	11,361,629	13,647,261
合計	18,446,629	19,163,515

（次年度繰越金のうち、1,000,000円は40周年記念事業積立金に充当）

本簿について監査しました。

2026年5月26日

北田佳子
渡利 成

※本ニュースレターでは印影削除

【総会資料２】

選挙管理委員会報告

2026（令和 8）年 6 月 19 日
委員長　吉田　茂孝

1. 理事選挙結果

「日本カリキュラム学会　役員選出規程」に従い、理事選挙を実施した。理事選挙に関する書類を 4 月 3 日付で発送し（4 月 22 日投票締切)、608 名中 254 名の投票があった（投票率 41.8%)。

第 2 回選挙管理委員会（4 月 23 日）において開票を行い、得票数上位者 25 名、次点 4 名に対し、理事選挙当選通知を送った結果、以下 25 名の会員から理事就任の承諾を得た。

石井英真	磯田文雄	上地完治	上野正道	奥村好美	小柳和喜雄
唐木清志	川口広美	川地亜弥子	木原俊行	金馬国晴	草原和博
倉本哲男	澤田稔	柴田好章	竹川慎哉	田村知子	西岡加名恵
二宮衆一	根津朋実	樋口直宏	冨士原紀絵	松下佳代	森久佳
吉田成章					

（50 音順）

2. 代表理事選挙結果

「日本カリキュラム学会　代表理事選挙に関する申し合わせ」に従い、代表理事選挙を実施した。代表理事選挙に関する案内を 5 月 21 日付で送信し（5 月 28 日締切)、新理事 25 名中 24 名の投票があった（投票率 96%、有効投票数 23、白票 1)。

第 3 回選挙管理委員会（5 月 29 日）において開票を行い、「得票数の第一位」の者を当選人として選出した。また、本人からも代表理事就任の承諾を得た。

代表理事　　根津朋実（早稲田大学）
次点　　西岡加名恵（京都大学）

【総会資料３】

第37回大会年度（2026年度）予算案（2026年4月1日～2027年3月31日）

収入の部

項目	予算額（円）	備考
学会年会費	5,000,000	過去2年分の実績にもとづく
入会金	80,000	40名見込み
学会誌代・雑収入・利子等	30,000	
第37回大会収入	1,000,000	
前年度繰越金	13,647,261	
合計	19,757,261	

支出の部

項目	予算額（円）	備考
第37回大会支出	2,000,000	
第35号紀要刊行費（含む発送費、J-STAGE掲載経費）	700,000	
学会賞費（研究奨励賞および優秀発表賞）	110,000	研究奨励賞2件、優秀発表賞1件
会合費（交通費他）	300,000	
事務局経費	200,000	クレジットカード決済手数料含む
事務局外部委託費	2,000,000	委託先「ガリレオ」
教育関連学会連絡協議会会費	5,000	
各種委員会経費		
紀要編集委員会	100,000	
国際交流委員会	100,000	
研究委員会	300,000	
広報・若手育成委員会	300,000	
学会賞委員会	100,000	
（小計）	900,000	
理事・代表理事選挙経費	510,000	
学会ホームページ及び学会システム更新	200,000	会員検索¥60,000／年、サーバー管理¥47,000／年含む
電子投稿システムの運用経費	450,000	論文以外の紀要原稿の提出・校正やりとり分含む
団体会員勧誘活動	40,000	チラシの郵送費等
予備費	200,000	
次年度繰越金	12,142,261	
合計	19,757,261	

※次年度繰越金のうち500,000円を40周年記念事業費に積み立てる。2026年度末積立金総額1,500,000円

代表理事退任のご挨拶

私はこのたび、根津朋実新代表理事にバトンを渡し、代表理事を退任することになりました。2017 年に代表理事に選出されたのは私にとって想定外の出来事でしたが、その後、3 期 9 年間にわたって代表理事を務めることになったのは、さらに想定外の出来事でした。

私は、主に能力論・学習論・評価論を研究テーマとしており、カリキュラム論は必ずしも自分の研究の中心ではなかったですし、また、2000 年代以降は高等教育を主なフィールドとしており、初等・中等教育がメインの本学会ではむしろマイナーな存在だったと思います。まして、代表理事を 3 期務められたのは、学会創成期の故柴田義松先生のみでした。

そんな私が無事任期を全うすることができたのは、各委員会の活動を進めてくださった委員長・副委員長・委員のみなさま、そして事務局の支えがあったからこそです。1 期目・2 期目の二宮衆一事務局長、木村裕・冨士原紀絵両幹事、3 期目の竹川慎哉事務局長、次橋秀樹・冨士原紀絵両幹事に、この場を借りてお礼申し上げます。

初めて代表理事に就任した際、私が立てた方針は、「本学会の活動を今まで以上に、知的にスリリングで豊かなものにすること」でした。この 9 年間、この方針を具体化するために努力してきたつもりですが、いかがだったでしょうか。

再任された 2020 年という年は、コロナ禍による学校・大学の休校措置がとられる中で、私たちカリキュラムを研究し実践する者の役割が大きく問われた年でした。そのときの挨拶では、上の方針の下での新たなチャレンジとして 3 つのことを挙げました。「カリキュラム研究を土台とした柔軟なカリキュラム運用の提案・発信」「若手育成・支援、とくに研究奨励賞の選考の見直し」「学会活動における ICT の活用の推進」です。

2 番目のチャレンジについては、この間に、学会賞委員会が新たに設立され、研究奨励賞と優秀発表賞という 2 つの賞が整備されました。また、広報・若手育成委員会の下で、毎年、若手育成セミナーが開催され、若手の研究を広げ深めるのに資するセミナーになっています。研究奨励賞が毎年授与されるようになったのは喜ばしいことですが、優秀発表賞については研究奨励賞との受賞者の重なり、審査の難しさなどがあり、再考の必要に迫られています。

3 番目のチャレンジについては、ウェブサイトの充実、オンライン投票、オンライン投稿などを実現してきました。オンライン投稿については、移行期は大変かと思いますが、軌道に乗れば省力化につながるはずです。

一方、「本学会の活動を知的にスリリングで豊かなものにする」という目標に直接つながる 1 番目のチャレンジについては、まだ道半ばです。2020 年にはコロナ禍であったこともあり、「柔軟なカリキュラム運用」を挙げましたが、大きくは、カリキュラムの研究と実践と政策をどうつなぐか、という本学会の中核に関わるチャレンジです。現在、次期学習指導要領に向けた審議が進められており、そこには本学会の会員も数多く関わっていらっしゃいますが、この十年に一度のチャンスに、学会から何か提言を発出するといったようなことができなかったことはやや心残りです。

学習指導要領や指導要録といった制度は現場からすれば法的拘束力のある強固なものに見えるかもしれませんが、実は、十年に一度は変わる可能性のある〈仮設性〉をもったものだと私は考えています。例えば、次期改訂に向けた審議では、「主体的に学習に取り組む態度」を含む「学びに向かう力、人間性等」について、各教科の評定につながる観点別評価から、教育課程全体を通じた個人内評価へと見直す方向が示されています。現場からの声とともに、カリキュラム研究による裏づけがこのような変更を可能にします。

9年の在任期間には、学会としての意見表明が求められる機会が何度かありました。コロナ禍の中で日本教育学会が提出した提言書「9月入学よりも、いま本当に必要な取り組みを―より質の高い教育を目指す改革へ―」への賛同表明（2020年5月）、「日本学術会議新規会員任命拒否に関する声明」（2020年10月）、「日本学術会議法案に関する緊急声明」（2025年5月）などです。いずれも理事有志による表明・声明となりましたが、私自身は、学会がこのような形で意見表明を行うことは必要なことだと考えて、とりまとめを行ってきました。

カリキュラムはポリティクスのせめぎ合う場です。本学会の会員も、小学校から大学までの教育機関、あるいは省庁から自治体までの行政機関、教育産業等、さまざまの“現場”に身を置きながら、カリキュラムの研究と実践にかかわっておられます。学術・教育政策や学習指導要領に代表されるフォーマルなカリキュラムに対するスタンスもまたさまざまです。大会やセミナー・研究集会等で、異質な考え方との出会いを演出し、多様性のもたらすダイナミズムによって、学会の議論をこれまで以上に活性化していただければと思います。

1990年12月に本学会が創設されてから、36年が経過しようとしています。2017年に私が長尾彰夫前代表理事から仕事を引き継いだのは、ちょうど30周年記念出版となる『現代カリキュラム研究の動向と展望』（教育出版、2019年）の準備が進められていた時期でした。2030年には40周年を迎えます。根津新代表理事のリーダーシップの下で、本学会が40周年に向けて、さらに知的な活気に満ちた学会になることを願ってやみません。

2026年9月25日
日本カリキュラム学会前代表理事　松下 佳代

代表理事就任のご挨拶

日本カリキュラム学会の歴代代表理事のお名前を記します（敬称略）：柴田義松、安彦忠彦、田中統治、水原克敏、長尾彰夫、松下佳代。ここに私の名が続くことに、何とも言いようのない、不思議さや畏れ多さをひしひしと感じております。

会則第 12 条に、「代表理事は本会を代表し、諸会議を召集する」とあります。「代表理事」は、会員による理事選挙により当選した理事の間で、もう一度、選挙をして決まります（会則第 11 条）。他学会のように会員の選挙で選ばれる「会長」と、本会の「代表理事」とは、性格がやや異なります。代表理事は、本会の代表もさることながら、理事会を代表するとも言えそうです。重責にくらくらするというのが、率直なところです。

代表理事就任にあたり、この挨拶文を書くこととなりました。先例の参照をと考え、学会誌『カリキュラム研究』創刊号（1992）以降、代表理事の挨拶を探しました。創刊号から第 11 号（2002）までは、理事会が同誌の編集委員会を兼ねました。この間、第 9 号（2000）に、「代表理事離任のあいさつ」（柴田義松・前成蹊大学教授）と「代表理事就任のあいさつ」（安彦忠彦・名古屋大学）があります。理事会から編集委員会が独立した第 12 号（2003）には、「代表理事再任に当たって」（安彦忠彦）があります。第 15 号（2006）は「代表理事離任のあいさつ」（安彦忠彦・早稲田大学）と「代表理事就任のあいさつ」（田中統治・筑波大学）、第 18 号（2009）は「代表理事就任のあいさつ」（水原克敏・東北大学）、と続きます。理事選挙・代表理事選出は 3 年おきですので、第 21 号（2012）や第 24 号（2015）にもこの種の挨拶文がありそうですが、未掲載でした。第 27 号（2018）に「代表理事就任の挨拶」（松下佳代・京都大学）、第 30 号（2021）に「代表理事再任に当たって」（日本カリキュラム学会代表理事・松下佳代）がそれぞれ掲載されますが、第 33 号（2024）は掲載なしでした。

年刊の『カリキュラム研究』に加え、本会には年 3 回刊行の『学会会報（Newsletter）』があり、第 32 号（2003.7.31）以降はオンラインで読めます。現在は電子メールで配信ですが、かつては郵送でした。同紙第 47 号（2008.8.31）に「代表理事就任にあたって」（東北大学・水原克敏）と「代表理事退任にあたって」（筑波大学・田中統治）、第 56 号（2011.9.1）には「代表理事挨拶」（東北大学・水原克敏）、第 65 号（2014.9.8）に「新代表理事挨拶」（プール学院大学・長尾彰夫）と「前代表理事挨拶」（早稲田大学・水原克敏）が、それぞれ見えます。第 74 号（2017.9.19）には、「新代表理事挨拶」（京都大学・松下佳代）、「前代表理事挨拶」（プール学院大学・長尾彰夫）もあります。

『カリキュラム研究』と『学会会報』とを調べますと、学会事務の業務委託を開始し、各種情報の掲載や配信でオンライン化が進められる中、代表理事就任・離退任の挨拶文をどう扱うか、本会の二つの定期刊行物の間で、少々揺れているように感じられます。

今回の代表理事就任は、約 30 年お世話になってきた本会に、ご恩返しをする機会ととらえています。記憶違いもありえますが、昔話を書きます。大学院生だった 1997 年、高知大学の大会で、初めて本会で発表しました。「全国学会デビュー」で、司会の天野正輝先生にご挨拶をしました。台風が接近し、新宿駅発の寝台列車に乗った記憶があります。2005 年

夏、大学に職を得て数年の頃、東京学芸大学の大会で、はからずも本会の事務局長を務めることとなりました。つくばエクスプレス開業の年でした。2006 年竣工の早稲田大学 26 号館で、事務局長（当時）の三尾忠男先生から引き継ぎを受けたはずです。往時の理事会は対面開催のみで、改修前の筑波大学東京キャンパス（最寄りは茗荷谷駅）を、主な会場としていました。理事会の案内や出欠確認には、往復ハガキやファクシミリを使っており、徐々に電子メールへと切り替えた記憶があります。学会事務局の各種業務は、大学院生のアルバイトが主力でした。当時は、事務局の実務を通じて、院生教育の機能が期待されていたかもしれません。その後も、事務局幹事や理事、正副委員長を務めさせていただく機会に恵まれました。

この 30 年間ほどで、大学や学会を巡る諸状況は、色々と変わりました。少子化や 18 歳人口の減少、国立大学の法人化、教職大学院制度の導入、新しい学協会の創設等は、そのいくつかの例でしょう。教育関連の諸学会は多様化する一方、拡散や小規模化、会員の漸減が進みつつあるようにも思います。会費未納者の扱いにより数字は変わりますが、本会の会員数も、往時の約 800 名をピークに、近年は 700 名前後です。他方で、次の学習指導要領が議論されるこの時期、本会の存在は重みを増す一方です。会員の皆様のご活躍に期待しております。

これまで 3 期 9 年間、代表理事をお務めいただいた松下佳代先生、および事務局の皆様に、心より御礼申し上げます。前期から引き続き事務局で幹事ご担当の竹川慎哉理事、また事務局長をお引き受けいただいた緩利誠理事とともに、しっかり務めたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2026 年 9 月 6 日

日本カリキュラム学会代表理事　根津　朋実（早稲田大学）

臨時理事会報告（2026 年 9 月 6 日）

出席者：石井英真、磯田文雄、上地完治、上野正道、岡部善平、奥村好美、川口広美、
川地亜弥子、木原俊行、金馬国晴、倉本哲男、黒田友紀、柴田好章、田中怜、
戸野塚厚子、西岡加名恵、根津朋実（代表理事）、樋口直宏、藤江康彦、
冨士原紀絵、南浦涼介、宮本勇一、森久佳、吉田成章（計 24 名）
（以上、敬称略、50 音順）
事務局：緩利誠（事務局長）、竹川慎哉（計 2 名）

臨時理事会が、2026 年 9 月 6 日（日）13 時から 14 時 25 分まで、Zoom を用いたウェブ会議形式で開催された。26 名（うち理事 24 名、事務局 2 名※理事をかねる）の参加があった。

審議に先立ち、根津代表理事より、代表理事就任の挨拶および所信表明が行われた。また、根津代表理事より、資料にもとづき、顧問、推薦理事、委員会構成、監査を含めた新体制の確認がなされた。常任理事については、各委員長に依頼し、承諾を得たことが報告された。

議事進行上の都合から報告事項を先に行うこととなった。

■報告事項

Ⅲ　監査の選出について

根津代表理事より、監査の選出については会則により総会の審議事項であることから、会員宛メールでの持ち回り総会としたとの説明があった。あくまで臨時的対応であり、今後もし同様の対応が必要な場合は、常任理事会や理事会に相談の上進めていくことが確認された。

Ⅳ　教育関連学会連絡協議会報告（9/2 開催）

根津代表理事より、出席した教育関連学会連絡協議会の会議の報告がなされた。

Ⅴ　事務局報告

総会のオンライン開催についての会員からの要望が紹介され、今後検討していくことについて確認があった。

■審議事項

「推薦による理事」として以下の会員を新たに選出し、承認された。

岡部善平　藤江康彦　南浦涼介

Ⅰ　各種委員会の活動方針について

1. 紀要編集委員会

石井委員長より、委員会体制の説明および紀要 36 号の編集スケジュールの確認があった。また、図書紹介の推薦依頼、紀要 36 号掲載予定の大会報告等の原稿執筆者についての報告

依頼がなされた。図書紹介については、基本は寄贈図書を中心に会員執筆の書籍を対象としていくとの方針が示された。

2. 国際交流委員会

吉田委員長より、委員会体制および今後の活動方針の説明があった。各委員よりひと言ずつ挨拶があった。

3. 広報・若手育成委員会

西岡委員長より、委員会体制および今後の活動方針、および秋のセミナー2026、第 6 回若手育成セミナーの企画内容について資料に基づき説明があった。秋のセミナーの企画内容への意見はなく、今後、会員への連絡や学会 HP への掲載を事務局と連携して行うことを確認した。

4. 研究委員会

奥村副委員長より、委員会体制および今後の活動方針の説明があった。研究集会、大会課題研究の企画内容については、11 月定例理事会にて提案する予定である。

5. 学会賞委員会

金馬委員長より、委員会体制、優秀発表賞の選考進捗状況の報告、研究奨励賞および今後の活動方針の説明があった。優秀発表賞の第二段投票の締め切りが 9 月 7 日（月）に迫っており、改めて理事への投票依頼があった。また、研究奨励賞の推薦については、締め切り日の確認（9 月末日）、および会員への周知方法について確認した。

金馬委員長より、優秀発表賞の今後の継続について資料に基づき提案があり、意見が交わされた。根津代表理事より、11 月定例理事会での議論に向け、理事から意見を募ってはどうかとの提案があり、金馬委員長よりそのように対応したいと発言があった。

II　その他

緩利事務局長より、旅費等に関する理事会申し合わせについて、委託業者、各企画名が未更新なので現行に修正するとの原案が示され、承認された。加えて、根津代表理事より、今後、各委員会の活動において必要となる事務作業については、アルバイトを採用するなど委員会予算の活用も可能であるので、検討してほしいとの発言があった。

その他

西岡理事より、理事会が新体制になったので、改めて予算執行の手順について事務局から提示してほしいとの要望があり、事務局で対応することを確認した。

理事会・事務局・委員会の構成について

＊囲みは推薦理事
（敬称略）

代表理事　根津朋実
事務局　　事務局長　緩利誠、　幹事　竹川慎哉

紀要編集委員会
委員長：石井英真
委員　：二宮衆一、樋口直宏、冨士原紀絵、松下佳代、岡部善平、黒田友紀、
藤江康彦、南浦涼介、

研究委員会
委員長：田村知子
委員　：奥村好美、唐木清志、木原俊行、柴田好章、森久佳、宮本勇一

広報・若手育成委員会
委員長：西岡加名恵
委員　：小柳和喜雄、上地完治、草原和博、澤田稔、髙橋亜希子、田中怜

国際交流委員会
委員長：吉田成章
委員　：上野正道、川口広美、川地亜弥子、戸野塚厚子

学会賞委員会
委員長：金馬国晴
委員　：磯田文雄、倉本哲男

顧問
田中統治、水原克敏、長尾彰夫

監査
北田佳子、山下大喜

以　上

日本カリキュラム学会「秋のセミナー2026」（公開）のお知らせ

教育課程の二階建てを考える：だれが、どのようにデザインするか

【企画趣旨】

次期学習指導要領改訂に向けた議論が進むなか、学校として編成する共通の教育課程を「一階」、個々の児童生徒に着目して編成する教育課程を「二階」とする「教育課程の二階建て」が提起されている。昨年度の「秋のセミナー」では、「余白」の創出と活用をテーマに各学校が教育課程を柔軟に編成する可能性について検討した。今年度は、こうした教育課程の柔軟化を踏まえ、個々の児童生徒に応じた教育課程のデザインに焦点を当てたい。

「二階建て」という構想は、教育課程をだれが、どのようにデザインするのかという、カリキュラム研究の根本的な問いを、改めて提起している。本セミナーでは、①STEAM・情報の視点から一階の学びを柔軟化する取組、②不登校児童生徒の二階の学びを保障する取組、③外国につながる子どもの一階と二階の学びを接続する取組、の三つの事例を取り上げる。事例報告と協議を通して、学校が教育課程編成の主たる責任を担いつつ、児童生徒、教師、保護者、教育委員会、専門家、教育関係機関等がどのように関わり合い、教育課程をデザインしていくことができるのか、その可能性と課題について考えたい。

【主催】

日本カリキュラム学会（担当：広報・若手育成委員会）

【日時】

2026 年 11 月 22 日（日）9:30～12:00

【形態】

オンライン（Zoom ウェビナー）

【登壇者】

國光 妙子（大阪教育大学附属天王寺小学校）
蓮浦 顕達（広島県教育委員会）
南浦 涼介（広島大学）

【司会・コーディネータ】

小柳和喜雄（関西大学）、草原和博（広島大学）

【参加費、参加資格】

無料です。会員以外の参加も可能です。録画・録音は禁止とします。

【参加申し込み】

11 月 19 日（木）までに、こちらからお申し込みください。
Zoom 接続の URL が送付されます。他者と接続情報を共有することはお控えください。

【問い合わせ先】

日本カリキュラム学会事務局（jscsstaff@gmail.com）

※「秋のセミナー」は、日本カリキュラム学会の社会貢献的行事として、全ての学校教育関係者及び教職を目指す大学生・大学院生、報道機関関係者、研究者等に公開しています。多数のご参加をお待ち申し上げております。

事務局からのお知らせ

1．現況概要（2026 年 6 月 8 日時点）

会員数や会費納入状況は以下の通りである。

・会員総数 686 名（一般会員 644 名、学生会員 36 名、団体会員 6 団体）

※未納退会希望者 5 名、会員一時資格停止者 24 を含む。

※2025 年度の新規入会者数は 31 名

※昨年度総会時：会員総数 688 名（一般会員 604 名、学生会員 78 名、団体会員 6 団体）

・会費納入率

2026 年度（4/1-6/8）：完納 397 名　未納 289 名　計 686 名 57.8%（切り捨て）

※未納退会希望者 5 名、会員一時資格停止者 24 を含む。

（2025 年度 90.4%、2024 年度 89.5%、2023 年度：89.0%、2022 年度：92.1%）

■新規入会者(2026 年 2 月 27 日～2026 年 6 月 8 日)

	入会年月日	氏名	所属	会員種別	推薦者
1	2026/04/01	大田　清美	所属非公開希望	正会員	事務局推薦
2	2026/04/01	加島　里奈	岩国市立東小学校	正会員	田本正一
3	2026/04/01	岡田　博元	お茶の水女子大学附属小学校	正会員	冨士原紀絵
4	2026/04/01	永田　和寛	星城大学	正会員	西岡加名恵
5	2026/04/03	杉村　陸	京都大学大学院	学生会員	石井英真
6	2026/04/05	樋口　元昭	大阪教育大学大学院	正会員	田村知子
7	2026/04/06	楊　晨	所属非公開希望	学生会員	山住勝広
8	2026/04/07	室木　宏支	平塚市立なでしこ小学校	正会員	倉本哲男
9	2026/04/07	中村　浩也	桃山学院大学	正会員	小柳和喜雄
10	2026/04/08	橋本　淳史	兵庫県教育委員会	正会員	若松大輔
11	2026/04/09	岡田　真史	広島大学教職大学院	学生会員	緩利真奈美
12	2026/04/09	飯干　新	鳴門教育大学教職大学院	学生会員	緩利真奈美
13	2026/04/09	加藤　達也	静岡市立横内小学校	学生会員	竹川慎哉
14	2026/04/10	福田　敏史	学習院大学大学院	学生会員	笹野恵理子
15	2026/04/10	野村　優成	広島大学附属小学校	正会員	磯崎哲夫
16	2026/04/15	濵松　章洋	明星大学	学生会員	鄭谷心
17	2026/04/16	佐藤　貴宣	高知大学	正会員	一木薫
18	2026/04/16	渡邉　和也	堺市教育委員会	正会員	石井英真
19	2026/04/16	周　艷芳	所属非公開希望	正会員	藤原由佳
20	2026/04/17	坂口　隆太郎	堺市立榎小学校	正会員	石井英真

21	2026/05/06	島本　政志	大阪府寝屋川市立神田小学校	正会員	石井英真
22	2026/05/21	小田　哲史	大阪市立長谷川小学校	正会員	山口博功
23	2026/05/23	久富　望	花園大学	正会員	石井英真
24	2026/05/26	粟村　正仁	所属非公開希望	正会員	中野和光
25	2026/05/31	藤井　義光	大阪市立中之島小中一貫校	正会員	石井英真
26	2026/06/01	ウダワッタサチニ　ディランカ	京都大学大学院	学生会員	田野茜

■退会者(2026 年 2 月 27 日～2026 年 6 月 8 日)

	退会日	氏名	所属	会員種別
1	2026/03/10	濱中　啓二郎	鶴見大学短期大学部	正会員
2	2026/03/23	佐藤　洋一	岡崎女子大学	正会員
3	2026/03/27	橋本　直賢	所属非公開希望	学生会員
4	2026/03/31	松永　洋介	愛知県立芸術大学	正会員
5	2026/03/31	横松　友義	岡山大学	正会員
6	2026/03/31	三浦　浩喜	福島大学	正会員
7	2026/03/31	衛藤　晶子	畿央大学	正会員
8	2026/03/31	住野　好久	中国学園大学･中国短期大学	正会員
9	2026/03/31	小林　彰彦	所属非公開希望	正会員
10	2026/03/31	新谷　士朗	福山市立新涯小学校	正会員
11	2026/03/31	坂口　謙一	東京学芸大学	正会員
12	2026/03/31	小尾　麻希子	武庫川女子大学	正会員
13	2026/03/31	東風　安生	北陸大学	正会員
14	2026/03/31	内田　卓雄		正会員
15	2026/03/31	清永　奈穂	日本女子大学	学生会員
16	2026/03/31	小杉　聡	所属非公開希望	学生会員
17	2026/03/31	上村　慎吾	所属非公開希望	正会員
18	2026/03/31	澤田　俊也	大阪工業大学	正会員
19	2026/03/31	山信　史子	所属非公開希望	学生会員
20	2026/03/31	衣川　さえ子	所属非公開希望	正会員
21	2026/03/31	吉川　麻紘	所属非公開希望	学生会員
22	2026/03/31	上田　苑加		正会員
23	2026/03/31	小宮　全	東京交通短期大学	正会員
24	2026/03/31	栗林　利昭		正会員
25	2026/03/31	諏澤　宏恵	花園大学	正会員

26	2026/03/31	髙橋　朋子	愛媛大学大学院	学生会員
27	2026/03/31	細野　花莉	広島大学大学院	学生会員
28	2026/03/31	亀井　浩明	帝京大学	正会員
29	2026/03/31	羽田　行男		正会員
30	2026/03/31	磯部　裕子	宮城学院女子大学	正会員
31	2026/03/31	中井　義時		正会員
32	2026/03/31	飯岡　裕介	久喜市立久喜小学校	正会員
33	2026/03/31	前田　敏章		正会員
34	2026/03/31	和田　佐和子	北海道美深町立美深小学校	正会員
35	2026/04/02	石川　照子	三重大学	正会員
36	2026/04/07	渡部　竜也	東京学芸大学	正会員
37	2026/04/21	末永　琢也	高知大学	正会員
38	2026/04/22	岡田　航平	所属非公開希望	正会員
39	2026/05/21	周　星星	所属非公開希望	正会員
40	2026/05/26	史　鵬宇	岡山大学大学院	正会員

２．寄贈図書等一覧（2026 年 3 月 6 日～2026 年 6 月 18 日）

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
松下佳代編著	実践　ディープ・アクティブラーニング：高校から大学・社会へ広がる深い学びのデザイン	勁草書房	2026.2.20	2026.3.16
学校・学びの再構築研究委員会（子どもと自然学会）	「本学び」実現のために：学校・学びを再構築する	学校・学びの再構築研究委員会（子どもと自然学会）	2026.3.16	2026.3.16
望月ユリオ	近代日本の教師における教科観の形成: 奈良女子高等師範学校附属小学校を中心に	風間書房	2026.2.20	2026.3.16
石井英真編著	「地味にいい学校」に学ぶ実践のオーナーシップの育み方: 教師が育ち、授業改革に取り組む公立小・中学校の学校づくり	日本標準	2026.3.30	2026.3.19
奥村好美	子どもが共に育つ 個に応じた教育の考え方と進め方: オランダに学ぶ個性化・個別化教育の課題と展望	日本標準	2026.3.30	2026.3.24
石井英真	今求められる学力と学び	放送大学教育振興会	2026.3.20	2026.3.26

植松千喜	子どもの声を聴く教師たち：アメリカの多文化教育の実践から	春風社	2026.2.20	2026.4.8
デイヴィッド・シェリン著，渡部竜也，堀田諭訳	社会科における真正の評価：アートベースド・アプローチによる歴史教育	春風社	2026.3.31	2026.5.19
松尾知明	教科横断的カリキュラムデザイン―新しい教育課程へ向けた「学びの再定義」	明石書店	2026.7.1	2026.6.18

3．会計途中報告

2026 年 4 月から 5 月までに生じた支払いは以下の通りである。

日本カリキュラム学会

第37回大会年度（2026年度）中間報告書

（2026年4月1日～2026年5月31日）

収入の部

項目	実績（円）	
学会年会費	3,028,000	
入会金	50,000	
学会誌代・雑収入・利子等	0	
第37回大会収入	1,035,000	
前年度繰越金	13,647,261	当期収入
合計	17,760,261	4,113,000

支出の部

項目	実績（円）	
第37回大会支出	0	
第35号紀要刊行費（含む発送費、J-STAGE掲載経費）	0	
学会賞費（研究奨励賞および優秀発表賞）	0	
会合費（交通費他）	13,900	
事務局経費	15,324	
事務局外部委託費	141,020	
教育関連学会連絡協議会会費	5,000	
各種委員会経費		
紀要編集委員会	0	
国際交流委員会	0	
研究委員会	0	
広報・若手育成委員会	0	
学会賞委員会	0	
（小計）	0	
理事・代表選挙経費	209,566	
学会ホームページ及び学会システム更新	5,500	
電子投稿システムの運用経費	0	
団体会員勧誘活動	0	
予備費	0	当期支出
次年度繰越金	17,369,951	390,310
合計	17,760,261	当期収支差額
（次年度繰越金のうち、1,500,000円は40周年記念事業積立金に充当）		3,722,690

４．会費納入のお願い

年会費が未納の会員の方は、納入をお願い申し上げます。2026 年 6 月 8 日時点での 2026 年度会費の納入率は 57.8%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。また、前年度（2025 年度）分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく（株）ガリレオ・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

（年会費：一般 8,000 円、学生 5,000 円、団体 10,000 円）

5. 会員情報更新のお願い

学会ホームページから会員情報の更新を随時お願いします。学会ホームページでは、会員専用ページとして「会員名簿検索システム」を導入しています。会員相互の連絡や情報交換のためのシステムですので、所属先の情報については可能な範囲で公開していただきますようお願いいたします。

また、学生としての所属がなくなった場合は、一般会員への変更をお願いいたします（こちらは学会ホームページの**「マイページ」の変更と併せて学会事務局までご連絡ください**。

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】
〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2 丁目 39-2-401
（株）ガリレオ学会業務情報化センター内
TEL 03-5981-9824 FAX 03-5981-9852 ※電話受付 平日 11:00～16:00
E-mail：g050jscs-support@ml.gakkai.ne.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】
〒154-0004
東京都世田谷区太子堂 1-7-57
昭和女子大学全学共通教育センター 緩利誠気付
日本カリキュラム学会事務局
E-mail：jscsstaff@gmail.com
【 学会ホームページ 】
https://jscs-info.jp/
※2024 年 4 月 10 日に学会ホームページのドメイン（URL）を移転しました。